



【目指す学校像】
学びと感動と温かさのある学校
【教育目標】 1 自主・自学の向上心を持ち、真剣に学習する生徒
 2 礼節の中に思いやりを持ち、互いに認め合う生徒
 3 心身を鍛え合い、たくましく生きる生徒
【校訓】 『親和一誠』 『自発協力』

第73回卒業式が挙行されました

～卒業生おめでとう、そしてご臨席いただいた皆様ありがとうございました～

校長 式辞 (一部略)

ただ今、卒業証書を授与しました卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。義務教育の課程を無事終了し、めでたく卒業の日を迎えることができましたことは、一人ひとりが3年間たゆまぬ努力を積み重ねてきた結果であることは言うまでもありません。その努力に対し、心から敬意を表します。

振り返ってみますと、コロナ禍の厳しい環境においても皆さんは、様々な場面で英知を集結し、勇気と希望を与える取り組みを体現してくれました。

特に体育祭や部活動で後輩を導く姿、授業中の学びに向かう真剣な姿をはじめ、自己披露・自分を語る会の取り組みは後輩への良き手本となるとともに、背中で語れる3年生として、本校の伝統に更に良き一ページを書き加えてくれました。

さて、9年間の義務教育を終える皆さんの門出にあたり、昨年度の集会で話したことを今一度、紹介したいと思います。

次の世界へ このままの世界で生きるか 完全よりも 永遠の青さを
 批判よりも 提案を 嘆きよりも コーモアを 常識よりも 非常識を
 過去よりも 未来を 正しいことを言うよりも 正しい行いを
 意味なく群れるよりも 意志のある孤立を 自分のためだけよりも 世界のためを
 このままの世界よりも これまで以上の世界を 人間次第でこの世界はまだおもしろくなる 次の世界へ



どのような時代だとしても、どれだけテクノロジーが進化したとしても、私たち人間ひとりひとりの行動こそが、これからの世界のあり方を決めていきます。パンデミックや自然災害など、世界規模の課題と対峙するのが当たり前となり、日常生活にまで影響を与えるようになる中で、様々な課題に向き合い、自らの特技や強み、個性を最大限に生かして自分の道を切り拓いていってほしいと思います。

春から始まる新しい世界で、自分の力に自信を持ち、自分の進むべき先をしっかりと捉え、自分の可能性を信じ、力強くスタートしてくれることを大いに期待しています。

答辞 卒業生代表 K. U. さん

(一部略)

中学校生活が始まった入学式。新しい学び舎に足を踏み入れ、新しい仲間たちと出会ったあの一瞬は、期待と不安で胸がいっぱいだったことを覚えています。

二年生で行った立志式。自分を見つめ直し、将来の夢や目標を宣言しました。改めて将来について考え、志を立てることができました。それぞれが新たな一歩を踏み出す行事となりました。体育祭では、クラス全員が本気で優勝を目指し、必死に練習に取り組みました。本気で取り組んだからこそ、カラー応援の内容や競技の作戦を決めるときに意見がぶつかり合うこともありました。しかし、それを乗り越えたことで絆がより深まり、応援や競技の完成度を上げることができました。

そして、最後の中総体。私たちは部活動でたくさんの喜びや悔しさを体験し、大きく成長することができました。自分の思うようにいかず、嫌になることもありました。成功したときの喜びは悩みを吹き飛ばすほどでした。優しく教えてくれた先輩。自分たちについてきてくれた後輩。厳しい中にも優しさのある顧問の先生。皆さんの存在があったからこそ、今の自分がいます。仲間からの温かい言葉、励ましのおかげでどんな時も前進することができました。結果にかかわらず、部活動で関わった全ての人に感謝の気持ちがあふれた中総体でした。次ページ



中学校生活最後の合唱コンクール。新型コロナウイルス感染拡大によって、一時は開催が危ぶまれましたが、開催が決まった時は本当に嬉しかったのを覚えています。今回の合唱コンクールは特別なものでした。全学年の中で二中の合唱コンクールを経験したことがあるのは、三年生だけだったため、二中の伝統をつなぐことが私たちの使命でもありました。二年前に見た先輩方の合唱は迫力があり、心を動かす合唱をどうにかしてつないでいきたい。その思いを胸に全クラスがグランプリを目指し、クラス一丸となって全力で練習に励みました。思うようにいかず、悩んだ時期もありましたが、話し合いや練習を重ね、各クラス、本番では一番良くクラスの思いが詰まった合唱を発表することができました。後輩たちに、二中の合唱コンクールをつなぐことができましたと思います。二年生は学校の中心となります。学校を引っ張っていく上で大きな困難が目の前に立ちはだかることがあるでしょう。しかし、皆さんはどんな困難も協力して乗り越える強い心があると信じています。歴代の先輩方、そして私たちがつないできた二中の伝統や私たちが築いた事を引き継ぎ、さらに発展させながらより良い二中を創りあげてください。

先生方はコロナ禍の中でもどうにか行事を実施させようと計画してくれたり、進路について親身になって相談にのってくれたりなど、学校生活の全てで私たちに寄り添っていただきました。

また、家族には一番近くで支えてもらいました。わがままを言ったり、反抗的な態度を取ったり、進路のことで困らせたりしましたが、私たちのことを一番考えてくれたことに感謝の思いしかありません。本当にありがとうございました。

そして、様々な場面で支え合いながら、この三年間でしか味わえない貴重な時間を一緒に過ごした、かけがえのない仲間たち。互いのことを理解できず、けんかになったこともありました。しかし、勉強ではわからないところを教え合い、部活でもよきライバルでした。共に卒業という日を迎えることができたことを、とても嬉しく思います。今もなお、卒業するということに実感がわきません。もっと、この塩竈市立第二中学校で過ごし、仲間たちや先生方と笑って楽しく過ごしていたい。しかし、今日が最後となりました。朝登校し、教室で見慣れた仲間との何気ない会話や同じ仲間と授業を受けることはもう二度とありません。そう思うとこれまでの日々がいとおしくてなりません。私たちは、これから、それぞれ新しい道に進んでいきます。進んでいくうちに、たくさんの困難に直面したり、悩みが生まれたりするかもしれません。ですが、私たちには中学校生活で手に入れた財産があります。忍耐強さ、向上心、想像力、仲間と協力することの大切さ、挑戦する心。それぞれが進む道で力になるということを私たちは学びました。中学校で学んだことを胸に将来の夢や目標に向かって羽ばたいていきます。



令和3年度同窓会入会式

3月9日（水）同窓会入会式が行われました。今年度の卒業生が加わり、同窓生の総数は14,570名になりました。当日は、同窓会会長のW. H. 様から入会歓迎のメッセージをいただきました。卒業生は今後も第二中学校の同窓生としての誇りを持って、歩んでいってほしいと思います。

また、今年度は同窓会のご支援をいただき、体育館のどん帳を新しくいただきました。ご支援に心より感謝申し上げます。



3.11. 防災学習

「語り継ごう東日本大震災」

「3.11. みやぎ鎮魂の日」に係る学習として、「震災から11年、これからの私たちにできること」と題しパネルディスカッションを行いました。講師の千葉育子先生から第二中学校の震災当時の様子を聞いた後、生徒代表3名との話し合いの中で「災害への備えや発生時に何をすべきか」について、全校生徒で考えました。活動の様子は、東北放送から取材を受け、テレビでも放送されました。

